トステム株式会社

サーフポート600形（一般地域用） 取付け説明書

MAF-630A 7-950314.②.Ⓗ

●この説明書は施工完了後、施主様へお渡しください。

■施工される方へのお願い

⚠ 警告

■設置条件

●建物側の屋根からの落雪による破損防止のため、落雪が製品に直接当たらない場所に取り付けてください。

●風の強い場所及び、積雪の多い場所では補強のため、補助柱（別売り品）を取り付けてください。

●サイドスクリーン取付け時には、補助柱（別売り品）を取り付けてください。

■部材の固定

●タッピンねじの下穴は、指定された下穴より太いドリルを使用しないでください。（4mmのねじに対し3.5mm、5mmのねじに対し4.5mmのドリルであけてください）

●組立てねじ・ボルトは、必ず指定のものを使用してください。又、施工終了後、ねじ・ボルトに緩みがないか再点検してください。

■施工時の足場について

●取付け時は、製品の屋根にはのらないでください。

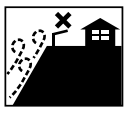
⚠ 注意

■設置条件

●本製品は一般地域用です。積雪の多い地域には取り付けないでください。

一般地域用600形…積雪20cm以下の地域

崖の側など、風が吹き上げる場所には設置しないでください。製品が破損するおそれがあります。



■基礎について

●基礎の大きさは、指定寸法以上にしてください。

●地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようにご注意ください。

●コンクリート（またはモルタル）には海砂や急結剤は絶対に使用しないでください。使用しますとアルミが腐食するおそれがあります。

●柱基礎には必ずぐり石を敷き、柱内の水抜きができるようにしてください。また柱と基礎の付根のところにも水抜き穴（φ6位）をあけておいてください。

●養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないようご指示ください。

■絶縁処理について

●アルミ形材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する時は、絶縁処理をしてください。

■波板について

■施主様へのお願い

⚠ 警告

●電灯線などの電線をフレームに巻きつけないでください。漏電するおそれがあります。

●積雪時には、危険ですので下記積雪量を超えるまえに雪下ろしをしてください。

一般地域用600形
…積雪20cm以下

※雪下ろしなどで屋根にのらないでください。

お手入れ・問い合わせ先について

【建物の立地条件と清掃回数】

●腐食の防止には定期清掃が一番です。簡単な水洗いだけでサビは防げます。定期的に年1～2回程度水洗いし、空ぶきするだけでぐんと長持ちします。汚れの特にひどい工業地帯、海岸のすぐそばなどでは清掃回数を増やしてください。

●アルミニューム表面の保護膜に傷を付けますと、腐食を早めます。清掃には布やスポンジなどの柔らかいものをご使用ください。金属製ブラシや金ベラは絶対に使用しないでください。

●洗剤は中性のものだけを使用してください。酸性やアルカリ性のものはアルミ表面の保護膜を侵し、サビの原因となります。

軽い場合……水で濡らした雑巾でふきます。

ひどい場合…中性洗剤を薄めた液で汚れを落とした後、洗剤が残らないように水洗いし、空ぶきします。

著しく腐食しサビがでた場合…中性洗剤を付けたナイロンたわし又は、目の細かい紙ヤスリで部分的に軽くこすり、汚れやサビを取り除きます。その後、水洗いし、乾燥させた後、塗料のはげた部分にタッチアップ塗料やスプレー塗料で塗装してください。

※タッチアップ塗料やスプレー塗料は、色調の近い車用の補修塗料を使ってください。

●波板の取換え…古くなった波板は早めに取り替えてください。強風その他の衝撃を受け、破損のおそれがあります。波板は当社指定品をご使用ください。

●波板の耐用年数は、ガラス繊維入塩化ビニール製とポリカーボネート製では多少異なりますが、波板の端部や固定穴の周辺に亀裂が生ずる等老化してきた場合はただちに交換してください。

●波板の取換え時に使用する波板止めフック（波板固定用）やその他の部品が必要な場合、または製品についてのお問い合わせは、最寄りのトステム取扱い店、またはトステム営業店にお願いいたします。

交換、修理について

通常の取扱いによって生じた不具合については、原則として当社の責任において交換・補修しますが、下記の場合は責任を負いかねますので十分にご注意ください。

●当社が表示した「■施工される方へのお願い」及び、「■施主様へのお願い」を守っていなかった場合。

●当社が表示した以上の性能を必要とする用途や個所（地域）に製品を設置した場合

●工事上の欠点があった場合

●製品に他の構成材を加えたり、又は規格外に加工して製品の形態を変えている場合

●風・雪による落下や飛来による損傷

●製品の表面に、特に塩害や大気中の砂じんやばい煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどの反応物質が付着して起こる腐食

●不可抗力（天災、地変、異常気象〔風、雪、水害など〕地盤沈下、火災、騒乱など）による場合

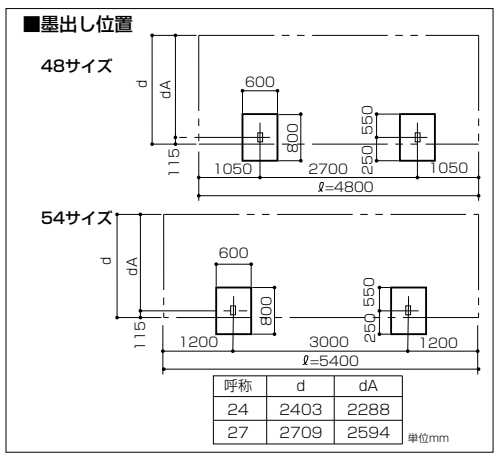
●本製品は、一般地域用です。一般地域用600形…積載荷重600N/m^2（61.2kgf/m^2）

サーフポートは、JIS規格品ですがハイルーフ仕様は、JIS A 6604の規格と寸法が異なるため、JIS規格外となります。施工の際は、側板に張ってあるマークを外してください。ただし強度・耐久性などの品質についてはJIS製品と変わりありません。

■取付け順序

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。



呼称	d	dA
24	2403	2288
27	2709	2594

2 柱とはりの取付け（図1参照）

●柱にブラケット・アンカー棒をそれぞれ取り付け、柱を建て込みます。

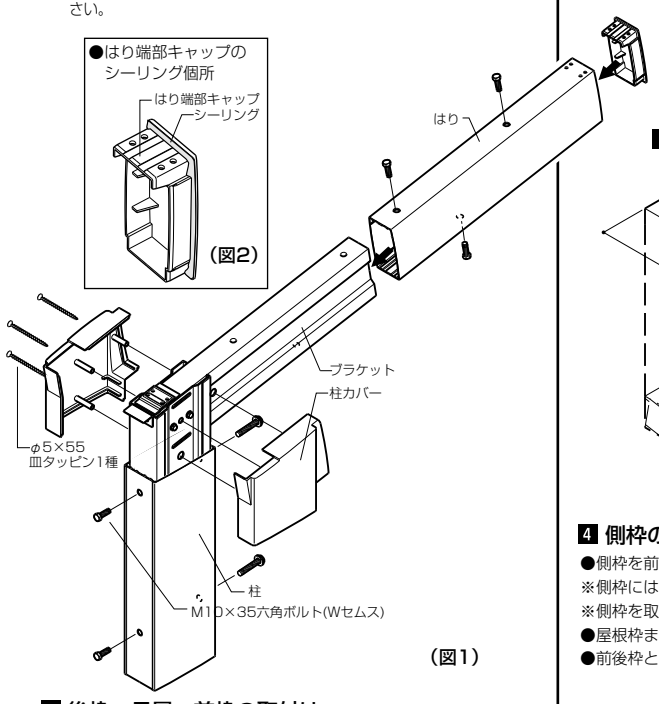
●はりをブラケットに取り付けます。その後、柱カバー・はり端部キャップをそれぞれ取り付けます。

※はり端部キャップを取り付ける際は、シーリング材を充てんしてください。（図2参照）

※はり端部キャップは、前枠を取り付けた後では取り付けられません。必ず、前枠より先に取り付けてください。

※「使用上の注意」ラベルを張り付けてある柱にたて樋セットを取り付けると表示が見えなくなります。たて樋セットの取り付かない面に向けてください。

（図2）



（図1）

3 後枠・母屋・前枠の取付け

●後枠をブラケットに取り付けます。（図3参照）

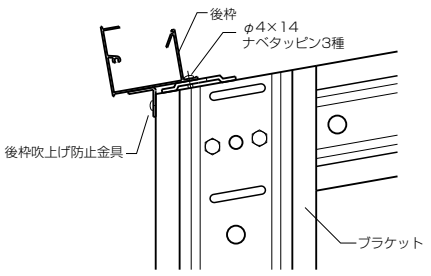
※取付け位置は、ブラケット上部のラベルの指示に従ってください。（A部詳細図参照）

●母屋をはりに取り付けます。（図4参照）

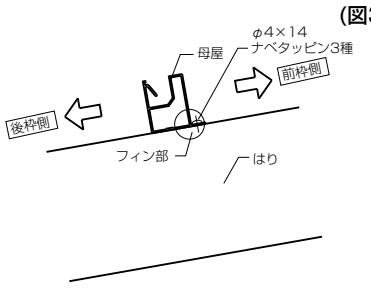
※前枠側にフィン部が向くように取り付けます。

●前枠をはりに取り付けます。

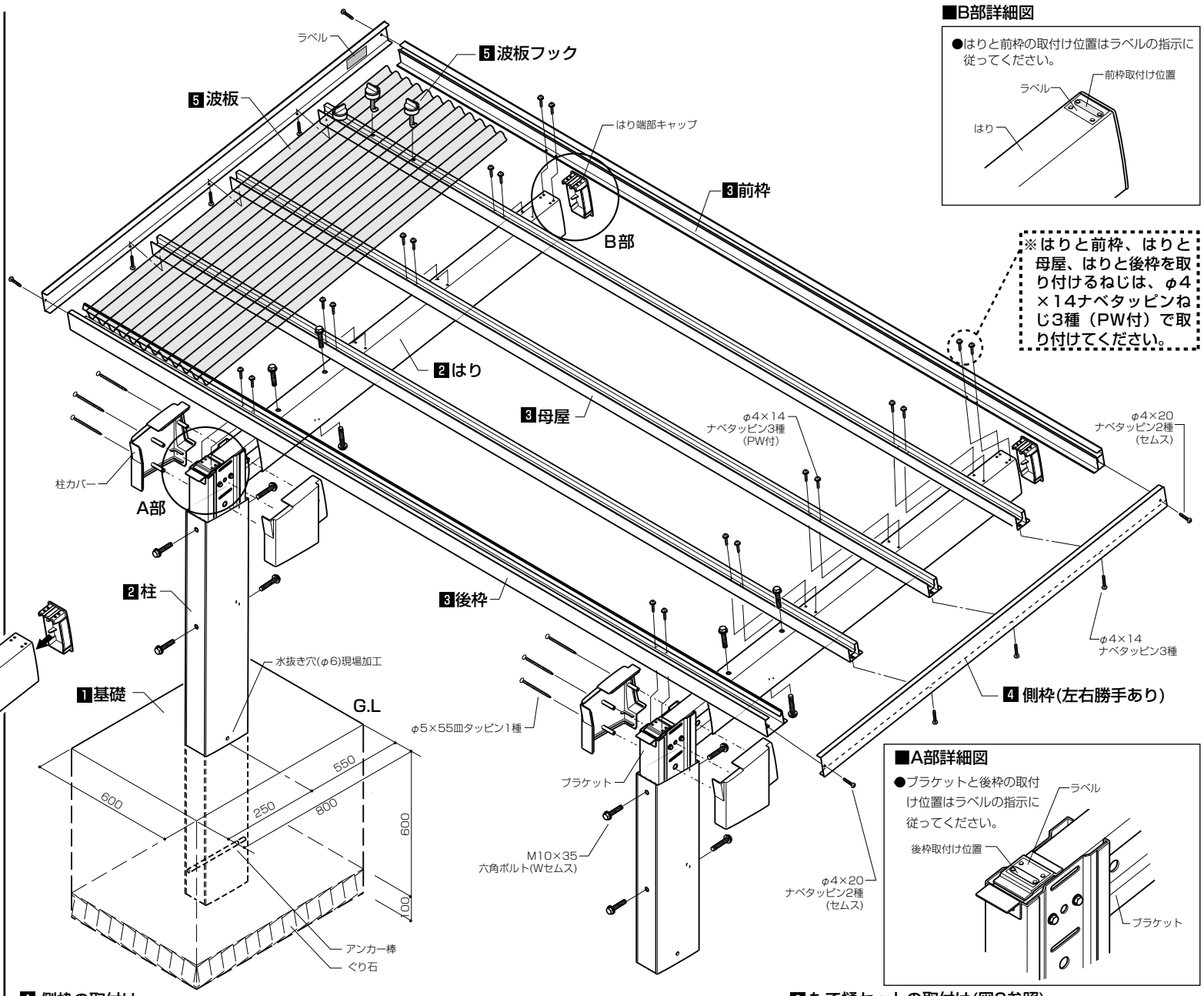
※取付け位置ははり上端部のラベルの指示に従ってください。（B部詳細図参照）



（図3）



前枠側に必ずフィン部がくるように取り付けます。（図4）



■B部詳細図

●はりと前枠の取付け位置はラベルの指示に従ってください。

■A部詳細図

●ブラケットと後枠の取付け位置はラベルの指示に従ってください。

4 側枠の取付け

●側枠を前・後枠及び母屋に取り付けます。

※側枠には左右があります。ラベルがある方を前枠側にしてください。

※側枠を取り付けるねじは2種類あります。

●屋根枠まわりの対角・水平出し及び、柱の垂直を出してください。

●前後枠と側枠の接続部にシーリング処理をしてください。

■波板寸法

単位mm

呼称	L
24	2420
27	2730

■波板枚数

呼称	枚数
48	8枚
54	9枚

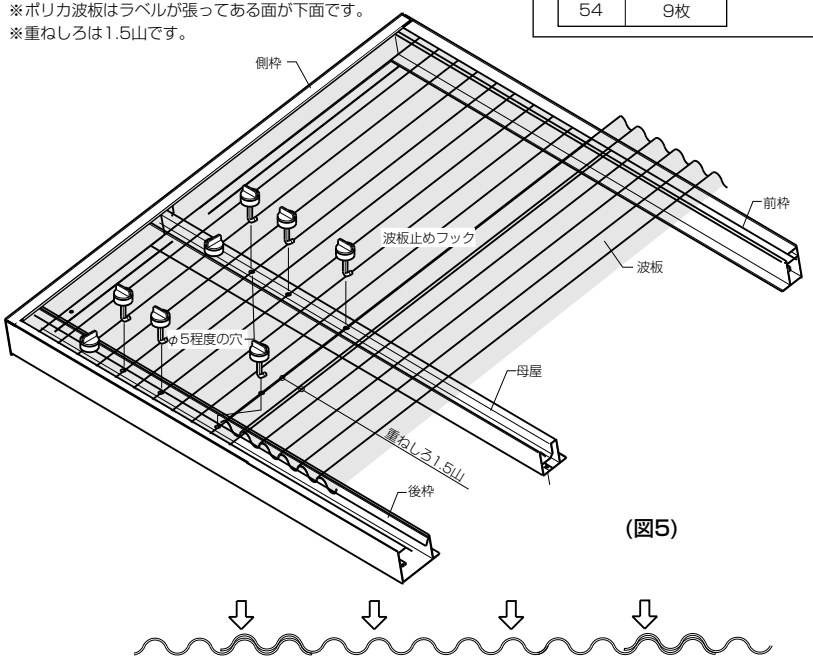
5 波板の取付け（図5参照）

●波板を波板止めフックで取り付けます。

※塩ビ波板はラベルが張ってある面が上面です。

※ポリカ波板はラベルが張ってある面が下面です。

※重ねしろは1.5山です。



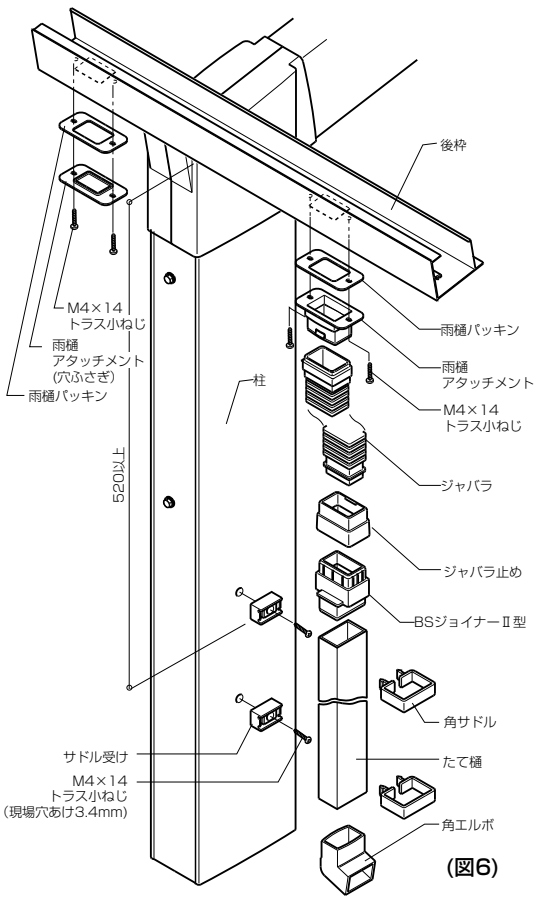
（図5）

※母屋・後枠に沿って波板の重なり部及び、中央の4カ所に穴をあけて、波板止めフックで止めてください。

6 たて樋セットの取付け（図6参照）

●後枠の両端に水抜き穴加工がしてあります。片方にたて樋セットを取り付けます。

●もう一方の穴は、雨樋アタッチメント(穴ふさぎ)を取り付けます。

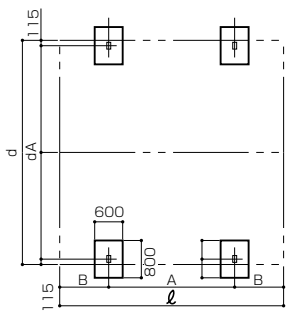


（図6）

■M合掌の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。



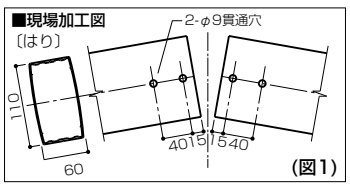
単位mm

呼称	d	dA
24-24	4827	4597
27-27	5437	5207

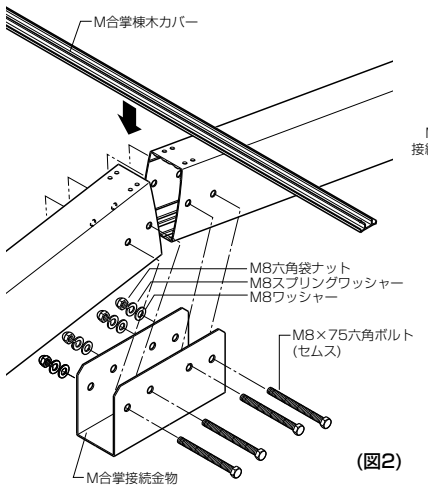
呼称	ℓ	A	B
48	4800	2700	1050
54	5400	3000	1200

2 本体の組立て

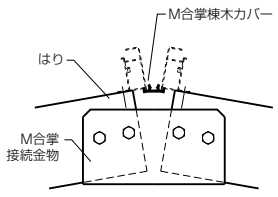
●組み立て前にはりの前枠側を現場加工してください。
(図1参照)
●柱・はりを組み立てて建て込み、はりとはりをM合掌接続金物で接続します。(図2参照)
●M合掌棟木カバーをM合掌接続金物の上にのせた後、前枠、母屋、後枠、側枠を本体に取り付けます。(図3参照)
●M合掌棟木、M合掌棟木キャップをそれぞれ取り付けます。(図4参照)
※M合掌部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。



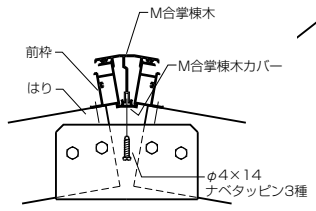
(図1)



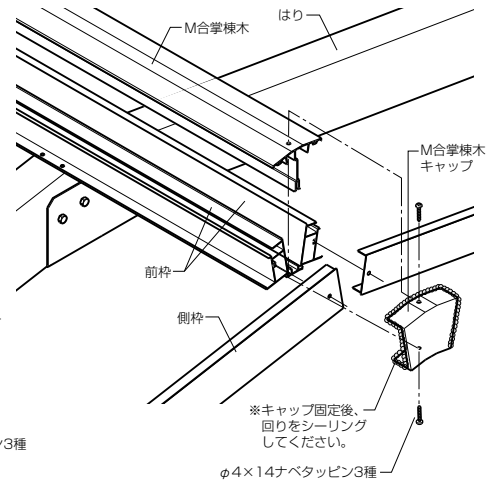
(図2)



(図3)



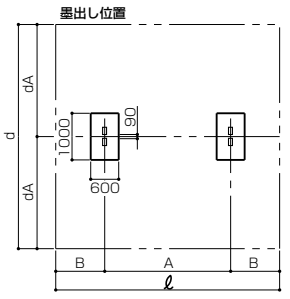
(図4)



■Y合掌の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。



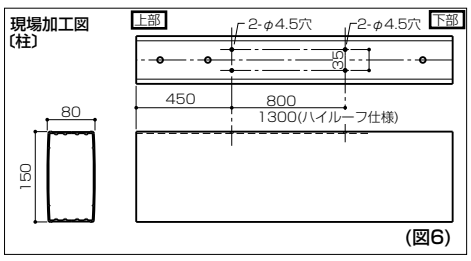
単位mm

呼称	d	dA
24-24	4817	2408.5
27-27	5427	2713.5

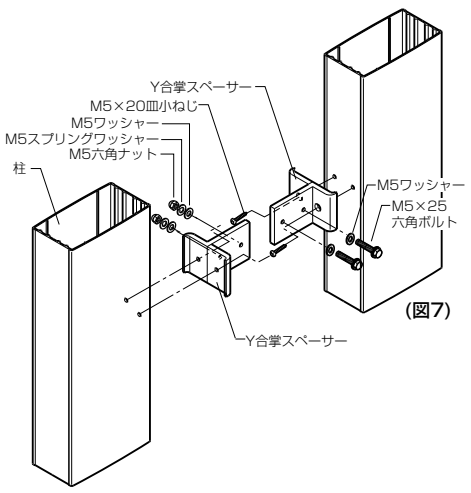
呼称	ℓ	A	B
48	4800	2700	1050
54	5400	3000	1200

2 本体の組立て

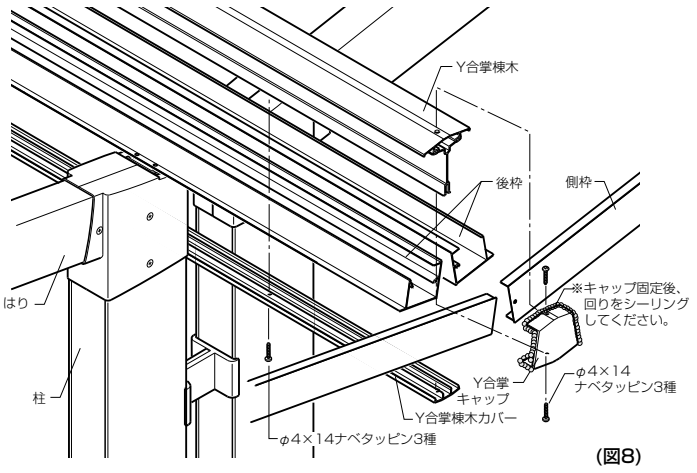
●組立て前に柱を現場加工してください。(図6参照)
●柱にY合掌スペーサーを取り付け、柱を接続して建て込みます。(図7参照)
●柱、はり、前枠、母屋、後枠、側枠を組み立てます。
●Y合掌棟木、Y合掌棟木カバー、Y合掌棟木キャップをそれぞれ取り付けます。(図8参照)
※Y合掌部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。



(図6)



(図7)

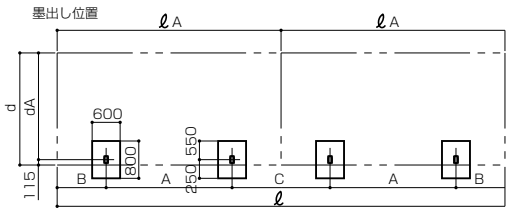


(図8)

■縦連棟の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。



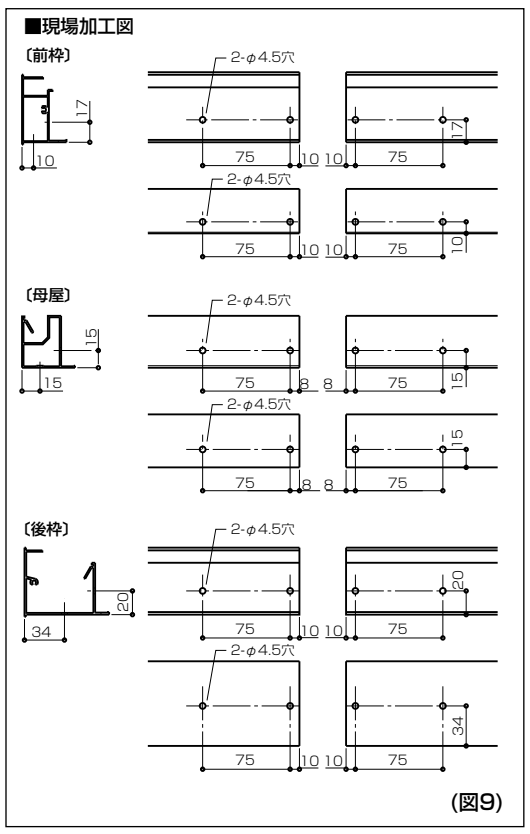
単位mm

呼称	d	dA
24	2403	2288
27	2709	2594

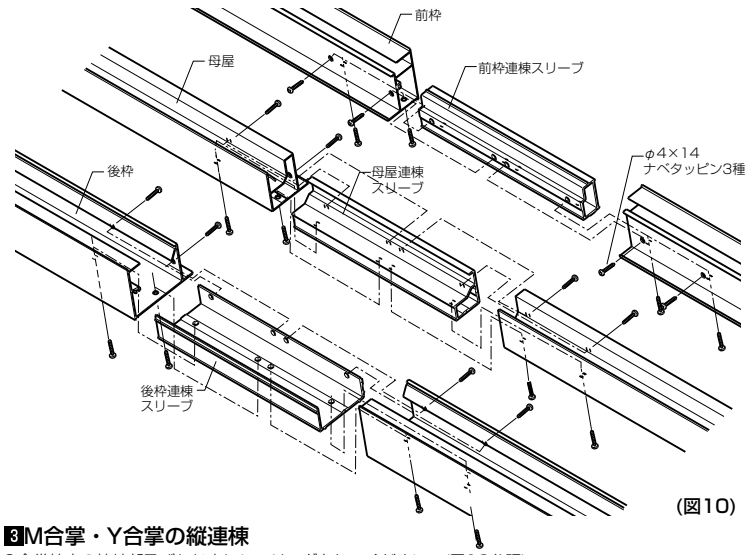
呼称	ℓ	ℓA	A	B	C
24-24	9598	4799	2700	1050	2098
27-27	10798	5399	3000	1200	2398

2 本体の組立て

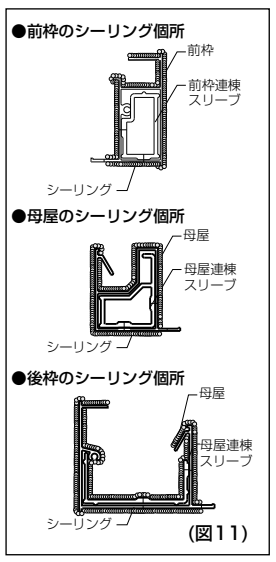
●組立て前に、前枠、母屋、後枠の連棟側を現場加工してください。(図9参照)
●連棟部分を組み立てます。(図10参照)
※連棟部分にシーリング材を充てんし、連棟スリーブ、前枠、母屋、後枠をそれぞれ接続します。(図11参照)
※連棟部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。



(図9)



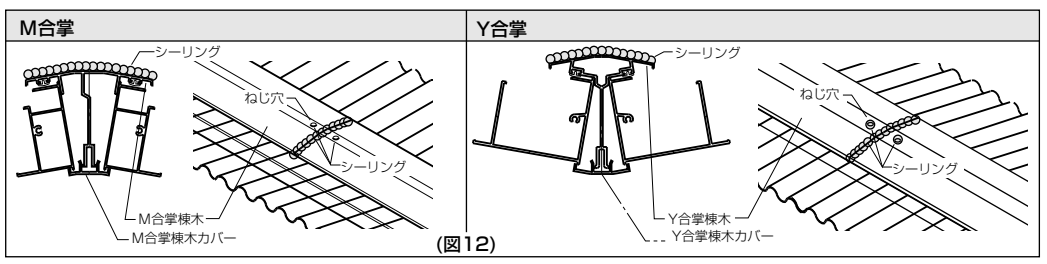
(図10)



(図11)

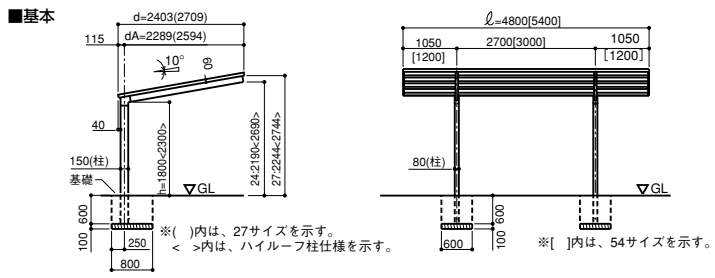
3 M合掌・Y合掌の縦連棟

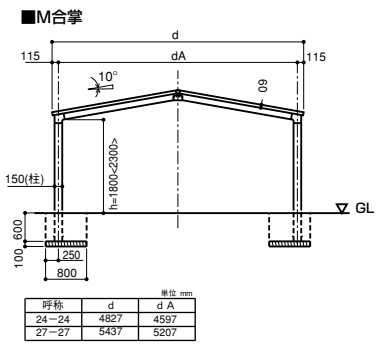
●合掌棟木の接続部及びねじ穴にシーリングをしてください。(図12参照)



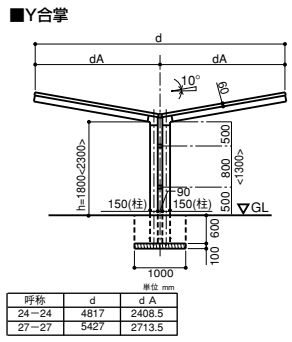
(図12)

■納まり参考図

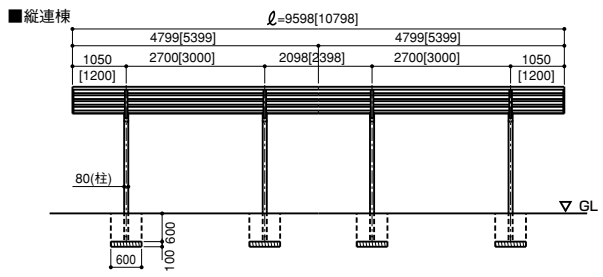


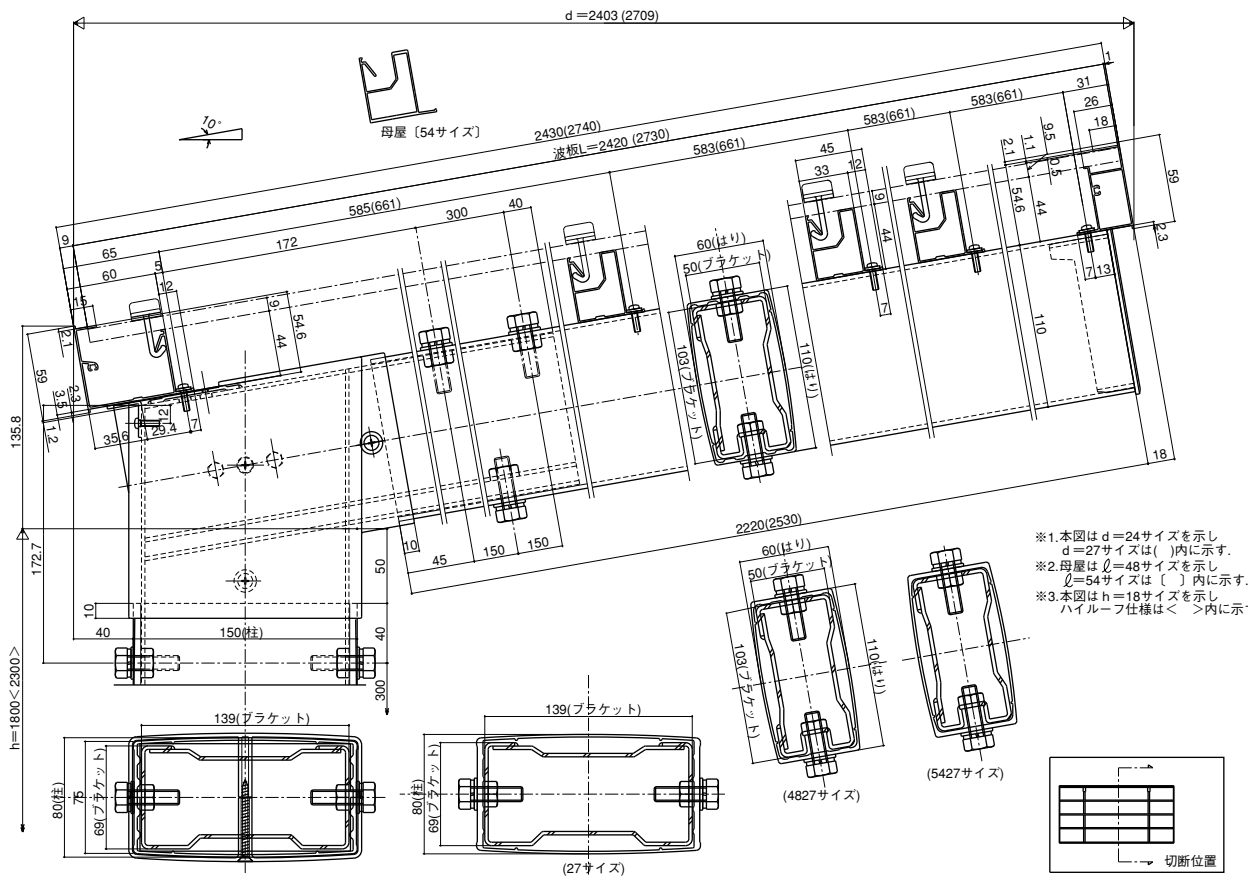


呼称	d	d A
24−24	4827	4597
27−27	5437	5207



呼称	d	d A
24−24	4817	2408.5
27−27	5427	2713.5





※1.本図はd=24サイズを示し
d=27サイズは( )内に示す.
※2.母屋はℓ=48サイズを示し
ℓ=54サイズは〔 〕内に示す.
※3.本図はh=18サイズを示し
ハイルーフ仕様は< >内に示す.